

歴史文化社会論講座紀要

第8号

『明堂經』の流傳と現状	閻 淑珍	1
「よろしかったでしょうか」は誤用なのか	劉 志偉	21
Coryat's <i>Crudities</i> —1975 miles on foot—	Sugandhi AISHWARYA	31
ジョン・デナムの翻訳論——〈作品〉への予感——	大久保友博	49
「ナイチンゲールに寄せるオード」にみられるアイロニー	高野 吉一	69
1860年代リヴァプールにおける日曜埋葬問題 ——19世紀後半イギリスの自治体共同墓地の運営——	久保 洋一	85
<i>The Portrait of Mr. W. H.</i> における Oscar Wilde の「自己」の追求 ——“Realize One's Own Personality”——	麻生 修平	105
小鳥は新世紀の夢を見るか？ ——「夕闇に鳴く鶴」におけるハーディの悲観論／改善論——	永盛 明美	117
湛方生と官の文学——東晋末の文学活動——	渡邊 登紀	一
「あふみ」、掛詞としての出発	二條絵実子	一七
国文学作品から見た日本のもみじ観とその成立過程	西尾 理恵	二九
永井荷風の習作における広津柳浪「河内屋」からの影響	浅井 航洋	四
近代的「子ども」像と「女兒」への一考察 ——雑誌『赤い鳥』の分析から——	峠田 彩香	六三
石川淳「葦手」論——「座標」のゆくえ——	宮崎 三世	八
『ノーツ・アンド・クエリーズ』誌と大辞典の時代 ——『オックスフォード英語大辞典』、『イギリス人名事典』、 『エンサイクロペディア・ブリタニカ』と南方熊楠——	志村 真幸	八八

2011年2月

京都大学大学院人間・環境学研究所
歴史文化社会論講座

『歴史文化社会論講座紀要』投稿規定

1. 投稿資格は、原則として、京都大学大学院人間・環境学研究科歴史文化社会論講座（以下、「本講座」と略）所属の教員、大学院生（元大学院生を含む）、および本講座教員の推薦するものとする。
2. 原稿は、本講座と関わる研究論文等で未発表のものに限る。二重投稿は認めない。
3. 掲載原稿は、原則として京都大学学術情報リポジトリに登録・公開するものとする。ただし、執筆者の要望により公開しないことも可能である。
4. 編集委員会は、投稿原稿について学内外の複数名に査読を依頼する。査読者は、①採用 ②語句の一部修正により採用 ③内容面にわたる修正の上採用 ④不採用 を判断する。
5. 投稿原稿の採否は、査読結果を基に編集委員会が決定する。
6. 投稿原稿は、日本語の場合 400 字詰原稿用紙換算で 60 枚以内、欧文の場合 8,000 語以内を目安とする。
7. 投稿予定者は、毎年9月末日までに編集委員または本講座教員に投稿予定表(別添)を提出のこと。投稿締め切りは毎年 10 月 15 日とする。
8. 投稿原稿は、コピー 2 部（計 3 部）に、電子メディア（使用ソフト名明記）を添えて、編集委員のメールボックス（専攻事務室内）に提出のこと。日本語の場合、A4 判の用紙に 40 字× 30 行でプリントアウト（縦書き・横書きいずれでも可）し、400 字詰に換算した分量（縦横各 20 字で一枚と計算、その総計枚数）を明記。欧文の場合、A4 判の用紙に 30 行でプリントアウトし、総語数を明記。各頁には通し番号を記入し、注はすべて原稿の末尾につけること（脚注にはしない）。併せて、英文タイトル、執筆者名の英語表記、現職名（大学院生は所属名）を添える。
9. 著者による校正は再校までとし、校正時における大幅な加筆・訂正は認めない。完全原稿で提出のこと。
10. 採用者には本誌 5 部、抜刷 30 部を贈呈する。それを超える分の抜刷については、著者の自己負担とする。

〔執筆者紹介〕

閻 淑珍	京都大学博士（人間・環境学）
劉 志偉	京都大学非常勤講師
スガンディ・アイシュワリヤ	京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程
大久保友博	京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程
高野 吉一	京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程
久保 洋一	同志社大学人文科学研究科嘱託研究員（社外）
麻生 修平	京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程
永盛 明美	京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程
渡邊 登紀	京都大学非常勤講師
二條絵実子	京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程
西尾 理恵	京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程修了
浅井 航洋	京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程
峠田 彩香	京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程
宮崎 三世	京都女子大学非常勤講師
志村 真幸	京都外国語大学非常勤講師

歴史文化社会論講座紀要 第8号 2011年2月28日発行

編集・発行 京都大学大学院人間・環境学研究科

歴史文化社会論講座

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

京都大学大学院人間・環境学研究科

印刷所 株式会社 田中プリント

〒600-8047 京都市下京区松原通麩屋町東入

Journal of History, Culture and Society

Number 8

February 2011

Articles

- The Dissemination and the Present State of the *Mingtang jing* (明堂經)
..... YAN Shuzhen
- Is “*yoroshikattadeshouka*” a Misuse? LIU Zhiwei
- Coryat’s Crudities——1975 miles on foot—— Sugandhi AISHWARYA
- A Germ of Creation: John Denham's Two Discourses on Translation
..... OKUBO Tomohiro
- Irony in “Ode to a Nightingale” TAKANO Yoshikazu
- The Sunday Interment Problem in the 1860s Liverpool: The Management of
Municipal Cemeteries in the Late Nineteenth Century Britain..... KUBO Yoichi
- Oscar Wilde’s Pursuit of Self in *The Portrait of Mr. W. H.* :
“Realize One’s Own Personality” ASO Shuheii
- Do Little Birds Dream of the New Century?:
“The Darkling Thrush” and Hardy’s Pessimism/Meliorism NAGAMORI Akemi
- The Official Writings of TANG Fangsheng :
Literary Activities in the Eastern Jin Dynasty..... WATANABE Toki
- Japanese Word “*Afumi*”: The Start of a Pun in *Waka* NIJO Emiko
- The Images of Colored Leaves in Japanese Literature NISHIO Rie
- The Early Works of NAGAI Kafu : Influence of HIROTSU Ryuro’s Kawachiya
..... ASAI Koyo
- The Modern Representation of Japanese Children (*kodomo*) and Little Girls (*joji*):
An Analysis of the Magazine *Akaitori* TAWADA Ayaka
- “The Coordinates” in ISHIKAWA Jun's “*Ashide*” MIYAZAKI Mitsuyo
- Notes and Queries* and the Golden Era of the Great Dictionaries:
Oxford English Dictionary, *Dictionary of National Biography*,
Encyclopaedia Britannica and Kumagusu MINAKATA SHIMURA Masaki

Course of Social Cultural History

Graduate School of Human and Environmental Studies

Kyoto University